

トップリーグチーム 代表者 各位
三地域協会レフリース委員長 各位
全国都道府県レフリース委員長 各位
レフリース 各位

平成21年7月27日
日本協会審判委員会
委員長 岸川 剛之

競技規則に関するIRB確認結果ご連絡

日頃審判委員会活動にご支援・協力賜りまして誠に有難うございます。本年度全国レフリース委員長会議及びトップリーグ合同会議において確認依頼のありました項目について、IRB関係部門の確認結果をご連絡しますので、宜しくご承知の上、関係者に周知下さる様お願いします。

1. IRB確認項目

- (1)スクラムにおけるボール獲得後のスクラムハーフの移動について
- (2)15条 タックラーの定義について
- (3)ラインアウトにおけるレシーバーの動きについて

2. IRB確認結果

- (1)スクラムにおけるボール獲得後のスクラムハーフの移動について

ELV-2008-4 ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフは次の2つの内1つを行うことができる。

- a. 同じ側にとどまったまま、ボールを追う*
- b. スクラムの最後尾の足に直接戻り、オフサイドラインの後方の好きな位置にいる*

上記aを選択したボールを追っていたスクラムハーフは、いつでも味方のスクラムの最後尾のプレーヤーの足のオフサイドラインに下がることことができる。

ただし、その際スクラムの側にとどまり下がるのが条件です。

また、bを選択したスクラムハーフは、前へ出ることはオフサイドになるのでボールを追う位置に移動することはできない。(添付資料1 図-1, 2参照)

(2)15条 タックラーの定義

相手プレーヤーでボールキャリアを捕まえて地面に倒し、かつ自身も地面に倒れたプレーヤーをタックラーと呼ぶ。ボールキャリアを捕まえていても地面に倒れなければ、タックラーではない。

地面に倒れたプレーヤーの定義は、片膝あるいは両膝、または体の膝より上の部分のどこかが地面に着いていてれば、そのプレーヤーは地面に倒れたことになる。プレーヤーが立っているには、地面に足が着いていて、体の膝より上の部分のどの部分も地面に着いていてはならない。

(3)ラインアウトにおけるレシーバーの動きについて

- a. ラインアウト開始前にレシーバーの入替はできる。(競技規則 19.8(k))
- b. ラインアウト開始前にレシーバーはラインアウトに参加できない。(19.8(i))
- c. ラインアウト開始後にはレシーバーはラインアウトに参加することはできる。(19.11例外2)

以上

添付資料1

図-1

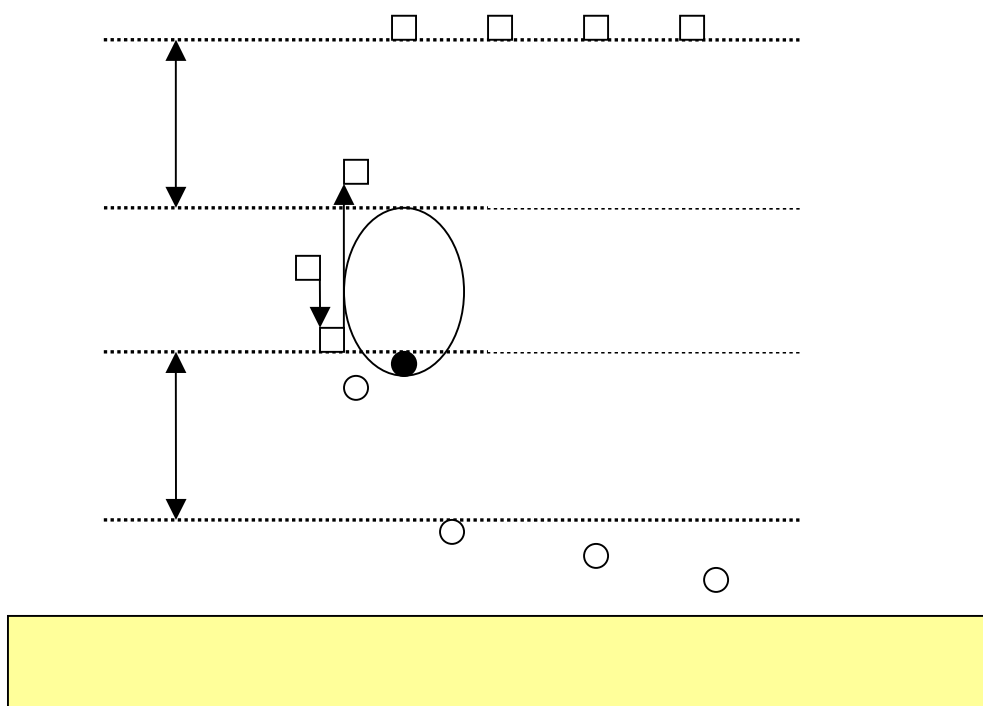


図-2

